

#### 4. 当院臨床工学技士の内視鏡室参入への取り組み

医療法人 栄和会 泉川病院

臨床工学技士 下田康一郎

医師 東郷 政明

##### 【はじめに】

当院の内視鏡室ではH28年度より膵胆管治療が本格化し検査数増加に伴う業務負担の増大が予測された。

内視鏡担当看護師8名で内視鏡業務を担当している。当院にはEECという独自の救急チームがあり内視鏡担当看護師がその一員となっている。

EECチームは心臓カテーテル検査・治療・24時間救急・放射線科業務も兼務している。そのために人員不足が問題となり新たに臨床工学技士（以下MEとする）を介入させることとなり業務全般の教育が必要となった。今まで業務に携わっていないコメディカルに対しての統一した内視鏡業務が行えることを目的に取り組んだ結果を報告する。

##### 【対象】

ME 3名

##### 【方法】

- ①医師や業者に学習会を開催してもらい内視鏡看護に関する知識の習得
- ②機器に触れてもらい、操作を確認。リスクマネジメントを意識させた。
- ③写真を取り入れた、マニュアル作成

##### 【結果】

初めに業者による基本的なスコープの説明を行ってもらうことによってスコープの種類や仕組みの把握を行う事が出来た。次に消化器内科医師により実際に鉗子や局注針などを使用し止血や生検に必要な知識と技術の習得を行った。洗浄の場面ではアセサイドチェックや交換について写真付きのマニュアルを作成することによって問題なく出来た。直接介助については投薬の面において看護師の介助も必要ではあるが人員不足の点においてはMEの介入により洗浄スタッフか直接介助の1名が確保でき軽減が出来た。

##### 【結語】

今回の取り組みにおいては問題を生じることなく実施できたがMEは院内の医療機器管理業務も遂行するため、週に1～2回しか内視鏡業務を担当できず継続するというところに

関しては効果的な教育の検討が今後は必要となることが考えられる。今後は、MEの専門性に特化した内視鏡周辺機器管理に活躍を期待し内視鏡業務の質の向上へと繋げたい。今回は緊急でMEを対象として取り組んできたが今後の新人教育についてもマニュアル化していきたいと考える。